



CONTENTS

CORPORATE FACE TIME

TOP MESSAGE

PERFORMANCE

MANAGEMENT

CFOメッセージ



ジョセフ ピーター

最高財務責任者 (CFO)

2016年度、日産は再び確かな財務実績を確保しました。厳しい為替相場に加え、新興市場を中心とする一部の市場が鈍化する中、中国の合弁会社に持分法を適用する会計基準では、連結営業利益は7,422億円、連結売上高は11兆7,200億円に達しました。不利な為替変動による影響を、販売増と継続的なコスト低減努力による事業効率向上で完全に補うことはできず、連結売上高と連結営業利益はともに前年を下回りました。

2016年度のグローバル販売台数は前年の542万台から3.7%増加し、過去最高の563万台に拡大しました。特に300万台を超える販売を果した下期が台数増に寄与しました。北米は着実に台数を伸ばし、特に米国では前年比4.2%増の158万台を販売し、市場占有率9%を獲得しました。ロシアを除く欧州でも健全な成長を実現し、販売台数は前年比7.2%増の68万3,000台となりました。会計年度が暦年ベースの中国では、前年比8.4%増の135万台以上を販売し、市場占有率は5%となりました。さらに心強いことに、2016年度下期には、国内市場も回復の兆しを見せ、登録車の市場占有率は14%に上昇しました。以上の好調な販売が、不安定な新興市場の影響を補いました。

また2016年度は、引き続きバリュー・チェーン全体のコストの効率化に集中的に取り組みました。この効率化の取り組みと販売台数の増加は前年度比29.1%増に相当する2,308億円の増益要因となり、営業利益は1兆240億円に引き上げましたが、為替変動による2,819億円の減益要因を完全に打ち消すことはできませんでした。

当期純利益は、カルソニック・カンセイの持ち株の売却益を含めると、前年から26.7%増加し、過去最高の6,635億円を記録しました。自動車事業のフリーキャッシュ・フローは6,771億円となり、継続的にバランスシートの強化を図っています。また、2016年度末の自動車事業のネットキャッシュは1兆6,400億円となりました。

中期経営計画、日産パワー88の目標は、中国合弁会社を比例連結した会計基準を前提としています。本会計基準での2016年度の連結営業利益は8,824億円、連結売上高は12兆8,400億円となりました。さらに、これらを、前年度と同水準の為替レートで換算すると、連結営業利益は1兆1,900億円となり、売上高営業利益率は日産パワー88で掲げた目標を達成する8.3%となりました。

2017年度も着実な成長を目指し、グローバル販売台数は前年比3.6%増の583万台を計画しています。中国、北米、日本を中心に、あらゆる地域で販売を伸ばし、グローバル市場占有率は6.2%を見込んでいます。

これらの販売計画をもとに、為替変動の逆風と、新技術・研究・商品開発への投資の増加を考慮した2017年度通期の連結売上高は11兆8,000億円、連結営業利益は6,850億円、売上高営業利益率は5.8%を見込んでいます。当期純利益の通期予測は5,350億円を見込んでいます。

継続的な高収益と確かなフリーキャッシュ・フローの確保に鑑み、今後も積極的な配当政策に変更はありません。2017年度は1株当たり5円の増配に相当する、1株当たり53円の通期配当を実施する予定です。これは2016年度に対し10.4%増加しており、年間配当金は日産パワー88を開始した6年前の水準から2倍以上増大することになります。さらに、2016年度は3億株にのぼる自社株の買戻しを実施するなど、今後も魅力ある株主価値の提供に努めてまいります。

日産パワー88を完了し、日産はより力をつけると同時に、収益性も向上しました。商品、技術の進化、事業の効率化を進め、そして財務規律を徹底することで、これからも利益ある成長を実現するとともに、より一層の株主還元を図り、今後の課題への対応を進めてまいります。

ジョセフ ピーター
最高財務責任者 (CFO)